

こどもの居場所づくりに関する現状と課題、支援のあり方の方向性(案)

1 情報発信及び連携強化

【現状】

- 県では、こどもの居場所づくり意見交換会や相談会を開催、民間団体でも、居場所に関するパンフレットやホームページ等による情報提供が行われている。さらに、令和 8 年度は、こどもの居場所ネットワーク交流会の実施により、関係者間の交流や情報共有の機会づくりが進められている。

【課題】

- 各団体が個別に情報発信を行っているため、居場所に関する情報が分散し、利用者にとって分かりやすい情報になっていないとの指摘があった。また、保護者からは利用できる居場所や活動内容等をまとめた情報提供を求める声があり、随時更新が可能なウェブ等による情報発信の充実が必要である。さらに、不登校や居場所等に対する理解が十分とは言えず、運営者同士の連携の場も不足している。

【支援のあり方の方向性】

- こどもの居場所に関する情報発信の充実を図り、認知度の向上につなげるとともに、居場所運営者や関係機関が情報交換や相談を行える機会の充実や、ウェブ等を活用した効果的な情報提供の方法を検討していく。また、学校、福祉、地域及び民間団体の連携を促進し、地域における多様な居場所の充実につなげる。

2 世帯への支援

【現状】

- 県教育委員会では、令和 6 年度からフリースクール等通所児童生徒支援事業を実施し、フリースクール等を利用する際の費用に対する補助を行っている。

【課題】

- 家計状況により居場所の利用が困難な子どもも存在しており、交通費や送迎負担も大きな課題となっている。また、学校とフリースクール等を併用して利用する児童生徒への制度上の対応が十分ではないことや、出席認定の取扱いが学校により異なる場合があることも課題として挙げられた。

【支援のあり方の方向性】

- フリースクール等こどもの居場所の利用者への支援の継続や、利用料補助制度の運用面での柔軟な対応について検討を進めていく。また、保護者同士が悩みや情報を共有できる機会の充実など、家庭へ支援の充実を図っていく。

3 施設運営への支援

【現状】

- 県及び市町村では、令和 6 年度から、こどもの居場所づくり支援事業により、新規開設や特色ある取組みへの支援を実施している。また、民間においては寄附やクラウドファンディング等を活用しながら運営が行われている。

【課題】

- フリースクール等こどもの居場所では、利用者の見込みが難しい中で、利用料収入だけで安定した運営を継続することが困難な場合があり、資金確保が課題と

なっている。一方で、公的支援については、多様で特色ある活動が制約される可能性があることや、事務負担を伴うことなどから、支援のあり方について慎重な対応が必要である。

【支援のあり方の方向性】

- フリースクール等こどもの居場所が果たす役割や活動の多様性を踏まえ、それぞれの特色ある取組みの充実を促進する。また、寄附などの民間資源の活用も視野に入れながら、地域全体でこどもの居場所を支える環境づくりが期待される。

4 スタッフの質の向上

【現状】

- 県では、スタッフ研修会を開催し、こどもの居場所の運営に携わる人材の育成に取り組んでいる。

【課題】

- しかしながら、人材不足により、こども一人ひとりのニーズに十分対応できない場合があるほか、教員免許を有するスタッフも多いものの、専門的な研修機会は十分ではない。また、近年開設された施設も多く、運営に関する知見や経験の蓄積が十分ではない状況にある。

【支援のあり方の方向性】

- 継続的な施設運営のための体制づくりを支援するため、研修機会の充実や運営ノウハウの共有を通じ、こどもが安心して過ごせる居場所の質の向上を図る。

5 コーディネート機能の充実

【現状】

- こどもの居場所に関する支援主体は、学校、行政、福祉機関、地域団体、フリースクール、こども食堂等、多岐にわたっている。

【課題】

- 一方で、それぞれの機関が十分につながっているとは言えず、必要な支援に結び付いていないこどもの存在や、支援の隙間が生じていることが課題として指摘されている。

【支援のあり方の方向性】

- 学校、福祉機関、こども食堂、フリースクール等がそれぞれの強みを生かしながら連携や情報共有を進めることで、地域におけるこどもの居場所の取組みの充実につながることを望まれる。また、支援につながっていないこどもを適切な支援へつなぐため、地域におけるコーディネート機能やネットワークの充実について検討していく。

おわりに（検討会としての提言）

本検討会では、多様な居場所の確保、居場所を利用しやすい環境整備、地域全体で支える仕組みづくり、関係機関の連携強化の重要性を確認した。今後は行政、学校、地域、民間団体等が連携し、すべてのこどもが安心して過ごせる居場所づくりを進めていくことが期待される。